

産業・都市基盤部会 審議の結果〔概要〕

<p>第1回部会審議 (5/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部会長選出 ・ 第3回審議会の結果確認 ・ 必要な施策項目確認 ・ 計画部分のページの骨子について ・ 各「施策の目標」について 	<p>第2回部会審議 (6/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 均衡ある土地利用の推進 ・ 道路ネットワークの整備 ・ 公共交通の利便性の向上 	<p>第3回部会審議 (7/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市拠点の整備 ・ 快適な居住環境の確保
<p>第4回部会審議 (8/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちを活性させる産業基盤の立地の促進 ・ 商工業の振興支援 ・ 就労支援と勤労者福祉の充実 	<p>第5回部会審議 (9/4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林漁業の振興と基盤強化 ・ 地域資源を活かした観光の振興 	<p>第6回部会審議 (10/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修正案確認 ・ 成果指標について



4. 地域を支える活力を産むまち

(1) まちを活性させる産業基盤の立地の促進

- ・ 一般的な産業立地だけでなく、農業による産業振興、人口増加は考えられないものか。農業も産業の分野と考えて、農業に携わる人を都会から呼び込んで人口増を図れないか。あるいは、週末の利用を考えれば、人口増にはつながらなくても産業としての活性化は図れるのではないか。PRのルートをつかんで高齢者を取り込めれば子どもに伝わっていく。都会に住んでいても、野洲を第2のふるさととして親しんでもらえるようになればよい。

(2) 商工業の振興支援

- ・ 現在の市の消費行動の実態から考えて、商店の活性化が地域の活性化につながるとは

思えない面もある。

- ・一方で、高齢者には大規模な施設はかえって不便。大規模店が立地しても、高齢者は買い物がしやすいところに流れるのはいか。数集落ごとの小規模スーパーが適していると考えられるが、採算性の問題もある。

(3) 農林漁業の振興

- ・漁業も林業も専業では採算がなかなか維持できないという状況にあり、特に林業に関しては森林がもっている自然としての力をボランティア的にでも維持しなければならない。冷静に厳しく見ていく必要がある。
- ・農業に関しては、「経営的自覚を持った農業経営への移行」「消費者との信頼関係の上に成立する消費ルートの確保」「都市への販路の拡大のためのPR手法の確立」などの概念が必要。

(4) 地域資源を活かした観光の振興

- ・野洲の伝統的な技術や産物と連携した「伝統観光」というジャンルが考えられる。外国人に喜んでもらえるのではないか。
- ・日本の若者も、伝統的な日本の家屋に住んだ経験がなく、縁側のある家に泊まれたらよい経験になる。
- ・林業とタイアップして、カブトムシやクワガタあるいはマツタケなど付加価値をつける方法もある。昆虫採取は深夜に行うので、うまくすると周辺の民泊に結びつく可能性もある。

(5) 就労支援と勤労者福祉の充実

- ・教育との関係、地域と家庭の関係が今後重要になってくる。

5. 均衡ある土地利用の推進

(1) 均衡ある土地利用の推進

- ・市街化区域の拡大はどのように考えるべきなのか。人口が5万人を超えたというが、人口を増やすことが良いことなのか十分検討すべき。
- ・コンパクトシティという考え方もある。

(2) 道路ネットワークの整備

- ・自動車用の道路を意識するのではなく、人の通る道を考えるべきである。
- ・野洲市は平坦で自転車が利用しやすいので、サイクリングロードを整備すれば若年層の定着などにつながるのではないか。

- ・既存道路については並木、植樹、街路樹など緑化を図るべきである。

(3) 公共交通の利便性の向上

- ・じゅんかんバスは利用が少ない。事業の目的やコミュニティバスの発想は理解できるが、実態は利用がなされていない。効率的に利用できるように検討すべき。利用されていないものに予算を配分するのは効率的な行政運営とは言えない。

(4) 快適な居住環境の確保

- ・高齢化に伴い、人々が集まるための広場が必要ではないか。公園とまではいなくても広場に樹木を2～3本植え、あずま屋を整備して、そこに行けば誰かに会えるような場が必要である。
- ・環境保全対策が必要。河川に関しても自然的護岸に戻すことを検討すべきである。

(5) 都市拠点の整備

- ・都市整備が進んだ後では改良がしにくい。最初から計画的に整備を行う必要がある。
- ・「庭園都市」という発想がよい。公園というヨーロッパ的な考え方に対して、生垣や庭木の緑や山並み、田園など全体を「庭園」として捉えた日本的な発想である。もともとは、江戸時代に来訪した際の日本の印象として評されたものである。